

地域にはばたく市民パワー！

ところざわ倶楽部「広場」

所沢市民大学修了者の会 広報紙

2012 年 7 月号 (第 52 号)

発行責任者 加曾利 厚雄

目 次

9 月公開講演会のお知らせ	1
6 月公開講演会報告	2
理事会報告(6 月)	2
所沢の景観まちづくりに取り組む	3
傍聴席の視点 第2回「市政報告」	4
特別会員リレー寄稿(第 6 回)	4
藤田博司先生	5
市民大学第 20 期開講	6
里山の循環型農業体験報告	6
サークル活動計画(7・8 月)	7
料理コーナー・むさし野俳句会 & お知らせ	8

西武「ところざわゆり園」にて 24.7.3 撮影

ところざわ倶楽部 9 月公開講演会のお知らせ

「所沢倶楽部と近代政治」**— 明治20年代の政治状況 —**

(担当) 野老澤の歴史をたのしむ会 三島 & 山下

明治 20 年代は明治憲法公布、初期議会開設など、近代国家の体裁が整えられた時期です。これに呼応した西武の地域政治の実態を「所沢倶楽部」を中心に紹介し、地方自治の伝統を探ってみたいと思います。

今回の講演は、市民大学 18 期の講義で人気が高く、今年 20 期 12 月にも講義予定のある渡辺隆喜先生にお願いしました。内容は所沢地域における政治結社「所沢倶楽部」の活動を中心に、明治 20 年代の政治状況をお話しいただきます。是非ご期待ください。

講 師	渡辺隆喜(明治大学名誉教授)
日 時	9月13日(木曜日) 午後2時 ~ 4時 午後1時30分受付開始
場 所	新所沢公民館ホール
参加費	無料
主 催	ところざわ倶楽部
協 力	野老澤の歴史をたのしむ会

倶楽部文化祭近づく！**— 7月27日(金) 午後 中央公民館ホールで ... —**

皆さんお待ちかねの、「ところざわ倶楽部」初の文化祭が間もなく開催されます。

概要についてはこれまでも数回にわたって本紙でお知らせしてきましたが、出演者及びプログラムが別添のように、決まりましたのでお知らせします。

市民大学のお別れ会などで披露され、既にその腕前が周知されている方、これを機会に同好の士が結成した新たなグループなどなど多士済々の出演者による、バラエティに富んだプログラムが用意されています。どうぞご期待下さい。

《6月公開講演会報告》

講演 「習近平政権：中国はどこにいくのか」を聞いて

アジア研究会 小椋 雄二

6月20日午後2時から、東京経済大学教授羅欽鎮先生による表題の講演が、小手指公民館分館ホールで開催されました。公開講演の決定から開催までが短時間だったにも拘わらず、また、接近が心配された季節はずれの大型台風4号も払暁までには通過し、130余名（内一般来場者43名）の聴衆をお迎えできました。

羅教授は熱弁をふるわれ、予定時間を20分あまりオーバーされる講演となりました。

今回の講演及び聴衆との質疑応答で知らされた中国の実情の内、「そうなんだ!」と感じた点を幾つか挙げます。

- 1) 人民解放軍は中国共産党の軍隊であり、中華人民共和国の軍隊（国軍）ではない。
- 2) 人民解放軍のトップ（中央軍事委員会主席）が実質的に共産党のトップであり、共産党のトップ（党主席）より上位。



熱心に質問に
答える羅教授

- 3) 習政権になっても民主化は進行するも、共産党にとって一番都合が良い社会主義市場経済のままだろう（予測）。
- 4) 2020年頃に、中国のGDPはアメリカを抜き世界一になるも、国民一人当たりになるとまだ中位にとどまる（予測）。
- 5) 今後50年間の日中関係は、経済関係の規模と親密さのため、多少ギクシャクはしても互いに依存し合い決裂はしない。資源開発が絡む領土問題の即時解決は困難？（予測）
- 6) 喫緊の課題：都市部に暮らす農民工の都市戸籍、年金一元化、高齢化と一人っ子政策。

羅教授はもとより、講演開催を支えていただいたところざわ倶楽部役員、アジア研究会会員、そして何よりも熱心に聴講された来場者のみなさまに御礼申し上げます。

平成24年6月理事会報告

6月理事会は11日(月)10時から開催された。

総務部長 菅沼 庸雄

1. 加曾利会長から当面の諸課題に対する所見
 - (1) 倶楽部次期体制の構築に向け、先ず各サークル代表理事改選の準備をお願いしたい。
 - (2) 広報部活動の充実のため、各サークルで理事以外に編集委員の選出をお願いしたい。
 - (3) 市民大学19期生に対する倶楽部説明会の準備を始める。受講生、運営委員会での説明を考える。
 - (4) 広報紙8月号は休刊の予定。7～9月の開催事業の通知などに手落ちの無きように。
 - (5) 5月講演会は参加者数でなく内容で評価したい。
 - (6) 7月文化祭の際、アンケート調査を行い会員の意見、要望を取り込みたい。
2. 若山事業部長 から、事業部事案の諸報告
 - (1) 5月講演会は盛会で、関係者の協力に感謝する。
 - (2) 7月「文化芸能祭」は準備進行中。会員から所沢の民話紹介の提案あり、審議の結果取込むこととした。

- (3) カルチャースクール構想への事業部の見解を説明した。時宜にあった講演会とサークル主催の事業に戻すべき等の意見。自由討議を行い多くの意見が出された。これらを受け事業部で再検討する。
3. 池田広報部長からは、広報部事案の諸報告
 - (1) 広場6月号の紹介。サークル紹介が定着した。
 - (2) 広場7月号の企画紹介と記事の依頼。市民大学20期開講式報告、「傍聴席」の視点2など。
 - (3) 9月講演会「所沢の歴史関連」事業企画の紹介を。
4. 菅沼総務部長
 - (1) 倶楽部支援会員への情報提供活動を紹介した。
 - (2) サークル「地域の祭り研究会」は代表影山、代表理事井上で確定した。
5. その他
[次回理事会予告]
第8回7月9日(月)、第10回9月10日(月)

支え！ 学び！ 遊ぶ！ サークル活動レポート

所沢の「景観まちづくり」への取り組み

「所沢の自然と農業」 清水仁一

サークルの「景観まちづくり」との関わりは、平成 23 年 7 月 1 日に施行された『所沢市ひと・まち・みどりの景観条例』及び『所沢市ひと・まち・みどりの景観計画』の策定に向け、平成 21 年 7 月に開催された「景観市民会議」への代表者の参加から始まりました。

景観市民会議では、約 100 名の市民がワークショップ形式で下記について論議し整理しました。

- ・所沢の景観の現状
- ・市民がつくる景観まちづくり

- ・所沢の景観をより良くするための方策
- ・景観まちづくりの方策の実現化

「景観まちづくりフォーラム」や「景観条例・景観計画の説明会」などにも参加し、この中で、所沢市の景観特性については、自然景観、歴史・文化的景観、市



街地景観の三つの視点から整理され、私たちのサークルの里山を守り、活用する活動との共通点もあり、また、市民参加で計画を推進するための「景観市民活動クラブ」は、サークル活動の輪を広げる場としても有効であると判断し、昨年 11 月の立ち上げ時から参画しました。

景観市民活動クラブは、各団体、行政との情報の共有化を図るとともに、互いに連携・協力することで多面的な景観まちづくりを行うため、自主的・主体的に

活動する組織であり、当サークルの他に、所沢景観市民プロボネット、フラワーヒル自治会フラワーベルト管理組合、Toko-Gardener∞（トコガーデナー）、所沢市造園建設業協会、古民家付き農園 corot、柳瀬川をきれいにする会の 7 団体で構成しています。

活動は、まだ始まったばかりですが、地道にコツコツと活動している仲間たちと一緒に「景観まちづくり」を幅広く発信し、活動の輪を広げ、一人でも多くの市民が活動に参加して頂ける様に頑張っております。具体的な活動は以下の通りです。

- ・情報誌「景観まちづくり ～とことこスタイル～」の発行（5 月 初号発行、年 2 回程度発行予定）
- ・活動展示（5 月 市役所 1 階市民ホール、6 月 野老澤町造商店）
- ・市民フェスティバルへの出展
- ・イベントの開催（6 月 景観まちあるき、12 月 落ち葉掃予定 など）

※市役所で「とことこガーデンマップ」を入手し、花の時期に近所のトコガーデナー自慢の庭を訪問してみてください。

なお、所沢市の主要な景観資源として狭山丘陵、三



富新田、所澤神明社、所沢航空記念公園、ところざわまつりなどが登録されており、ところざわ倶楽部の地域の自然、歴史散策クラブ、野老澤の歴史をたのしむ会、公園を楽しむ会、地域の祭り研究会等のサークル活動とも関わりがあるので、関連サークルで「景観まちづくりサミット」を開催し、ところざわ倶楽部として「景観まちづくり」への発信につながると楽しいと思っています。

■ 景観市民活動クラブのページを Facebook で立ち上げましたのでご覧ください。

(ja-jp.facebook.com/tokotoko.style)



「傍聴席」の視点 第2回

市長と市民、価値観の対立

「傍聴席」本間 滋

[狭山ヶ丘中学エアコン設置問題のその後]

この問題は既にいろいろなメディアが取り上げています。特に二大全国紙の読売と朝日が県版とはいえ何度もこれを伝えていますし、5月中旬にはTBSが取り上げ、6月にはNHKが午後6時の「首都圏ニュース」で関東全域に放映されました。所沢についてこれだけの報道がなされたのは、かつてのダイオキシン問題以来のことでしょう。ということは、今回の状況が世間一般の「常識」に照らした時、かなり異常な事態であることの例証なのでしょう。

[市長の主張]

「エアコン設置の方針が変わったのは市長が替わったからではなく、大震災が起きて日本が変わったからだ」と依然として意気軒高で、「今までこうだったからというのはいけな、というのが自分の考えだ」と主張しています。

因みに6月9日の読売の見出しは『被災地でこの議論できるか』中学にエアコン所沢市長再否定』

[市民の主張]

一方狭山ヶ丘中のPTAや地域の住民は、6月8日、所沢市議会に対して従来の整備方針に基づいた計画的



署名を集めて市立狭山ヶ丘中へエアコン設置を求める所沢市市民会館前で繰り出した形太代（7月6日）

なエアコン設置を求める請願書を、15730人分の署名を添えて提出しました。請願では「行政の継続性」を強調。市は2006年に定めた「防音校舎の整備方針」に基づき、狭山ヶ丘中など3つの小中学校（宮前小・設置済、

北中小・15年予定）へのエアコン導入を前提に工事や設計がなされており、更にこれは入間基地の自衛隊機騒音対策の一環であることも指摘し、同中学校への13年度の工事实施を求めています。同じ6月7日、朝日もこの問題を5段抜きで伝えています。そのメインの見出しは「エアコン設置15000人署名」と大きく扱い、サブとして「所沢防音校舎市長『中止は変らず』」とあります。

[議会の対応]

上記の請願は6月定例会において所管の委員会で審査されることとなりますが、これとは別にこの問題の主務である教育福祉常任委員会としては定例会初日の6/15に「教育環境の改善を求める決議案」を提出し、議会として討論を行い賛成多数で可決されました。投票は記名投票で行われ賛成31人、反対1人無効（白票）3人でした。実はこの決議には拘束力はないのですが、PTAの意見のように「市の宝である子どもたちが授業に集中できるための教育環境の整備・充実」は緊急の課題である」として、改めて市長に再考を促しています。市長からは「質疑や答弁、賛成、反対の討論もよく伺ったし、議会の真意もよく分った」とのコメントがありましたが、議会からの今回の「提言」がどう扱われるかは市民としても注目していくべきことだと思います。

[「傍聴席」の視点]

今回の件で腑に落ちない点は、新聞も伝えています。が、「騒音がうるさいと言われるが、卒業生や先生から聞くなどして調べ『授業はできる』と判断した」という市長の発言です。この重要な判断が一体どのくらい

の人の意見だったのか、その内容も含めて何の説明もなされていないことです。これからの「地域の自治」と市政運営に必要なことは、熟議と熟慮と説明責任と透明性によって大方の市民の「納得」をとりつけることだと思うのですが、市長の言動にはこのような発想が全く感じられません。今回の件も、これに起因しているように思います。

[倶楽部の皆さんはどう思われますか]

市政運営というと私たちの日常生活とはあまり関係がないように感じる向きもありますが、今回のケースでは少なくとも3校の生徒児童を始め、その保護者やPTAなどの人々にとっては正に市政運営の変化によってにわかにその当事者になってしまい、その範囲が署名された15,000人に及んだということでしょう。このような「価値観の対立」に最終的に決着をつけるのは、やはり34万市民・27万6000の有権者がどう判断するかにかかると思います。市長といえどもこれに従わざるを得ないのが民主主義の基本原則です。ところざわ倶楽部の皆さんはどのように判断されますか。「当事者」として考えてみていただけませんか。

「終の棲家」と「傍聴席」

元共同通信社論説副委員長 藤田 博司



所沢に住み始めてかれこれ 40 年近くが経つ。引っ越してきた頃は、この地にこれほど長く住み続けるとは思ってもいなかった。取り立てて所沢が好きになったというわけでも

ない。自分の無精のせいで何となく腰を落着けてしまった、というのが実情だが、どうやらこのまま、所沢が「終の棲家」になりそうな雲行きである。

ご近所の同世代の人たちと同様、現役時代は「所沢都民」だった。仕事は東京で、家に帰るのは寝る時間だけ、という生活だったから、所沢のことや地域のことについては無知だった。仕事人生を終え地元で過ごす時間が増えて、初めてその無知を強烈に自覚させられた。そんな時期に所沢市民大学（14 期）で話をする

機会を与えられた。

無知の原因は自分の無関心にあった。しかし、関心を刺激してくれる情報がなかったことも大きな原因と思われた。新聞やテレビでは地元の情報が伝えられることがほとんどない。それを「情報砂漠」と呼んで、なんとかできないものか、と受講生のみなさんに問いかけてみた。反響は予期した以上に大きかった。

みなさんは議論を重ね、やがて行動を起こした。自分たちの手で知りたい情報を集め、自分たちにできる方法で発信を始めた。市議会を傍聴する、行政に目配りする、実際に見聞したこと、考えたことをインターネット上のブログサイトで報告する、という活動にとりかかった。「所沢の民主主義をサポートするささやかなメディア」と銘打った「傍聴席」の活動がそれである。

いつまで続けられるかという心配がなかったわけではない。が、心配は無用だった。ブログサイトを遡ってご覧になると分かっていただけと思うが、「傍聴

席」グループの活動は単に市議会の傍聴にとどまらず、自治基本条例や議会基本条例推進への取り組み、市財政をはじめ行政の諸施策万般の監視など、市民生活に関わるさまざまな問題にわたって、年を追って厚みと深みを増している。

ブログサイトに投稿される報告や分析は、実体験に基づく鋭い観察や豊富な実務経験を踏まえた指摘まで、レベルの高い内容が少なくない。おそらく、多くの心ある市議会議員や行政の責任者は、「傍聴席」への書き込みが侮れないものであることに気づき始めているに違いない。

むろん、「傍聴席」が読まれている範囲は限られている。その活動にふさわしい影響力を持つようになるには、まだまだ時間が必要かもしれない。しかし、いずれ多くの市民がその活動の意義を評価し、所沢をよりよく知るための手がかりの一つとして、このブログサイトを頼りにしてくれる時期がくるものと、わたしは密かに信じている。

わたし自身はこのブログに目を通し、時たま「傍聴席」の集まりを傍聴させてもらいながら、このグループから多くのことを学ばせてもらっている。地元の問題に対する自分の関心の度合いは以前より高くなったが、まだまだ教えられることばかりである。そんな学びの過程を通じて、「傍聴席」の人々とのお付き合いが、わたしにとってはこれまでの仕事人生での付き合いに劣らず、貴重なものになっている。所沢を「終の棲家」とすることも悪くない、と思い始めているのはそのためである。

《 略 歴 》

1937 年生まれ。1961 年、共同通信入社、サイゴン特派員、ニューヨーク支局長、ワシントン支局長、論説副委員長などを経て、1995－2005 年、上智大学教授、05－08 年、早稲田大学大学院客員教授。06 年－現在、朝日新聞・報道と人権委員会委員。

落ち葉堆肥を使ってサツマイモを作ろう！

里山の循環型農業体験記

多胡 國男

6月3日（日）、一般市民の方15名の参加をいただき、前段は「里山の循環型について」の講義（早稲田大学大堀 聡先生）、後段は「地域の自然グループの活動調査地見学」及び「サツマイモ苗植え付け体験」を実施しました。サツマイモ畑は里山の循環型を体験するために肥料は活動調査地で堆積、熟成させた落葉堆肥だけに限定し、化学肥料、殺虫剤等一切使用せず収穫まで管理していきます。

苗の植え付け総数は約150本、その内75本（1人5本）は、参加者が収穫祭時に自分が植えた苗の成長結果を体験できるように名札を付けて頂き、どれだけの収穫量があるのかとの期待を持たせるとともに、つる返し等、今後の最小限の作業と一緒に実施し、緑を守る活動に1人でも多くの市民の参加を得られればと考えています。

参加頂いた方のアンケートを拝見させていただいたところ、「里山の保全・循環型農業の継承の必要性」、

「予想外に重労働」、「子供のころの思い出がよみがえった」、「初めての経験で楽しかった」等々の意見がありました。

15名中可能な限り各種作業に参加したいとの方が6名、収穫祭には15名全員が参加を希望されていました。

収穫祭参加者全員の笑顔을期待して！！



第20期所沢市民大学が開講！

第20期所沢市民大学企画委員 園田 靖彦

所沢市民大学の20年目の節目となる第20期の開講式が、去る6月5日新受講生80名を迎え、所沢市生涯学習推進センターで熱く盛大に挙行された。

開講式は、則武辰夫所長の司会のもと、まず佐藤徳一所沢市教育委員会教育長から、お祝いと歓迎の挨拶があり、畠田良彦企画委員長からは、「所沢市民大学のような、2年制でかつ官民一体となって企画・実行している組織は全国的にみても珍しい。その20年目の節目にあたり入学されたみなさんは、新たな仲間と将来に向けた新しいステージを見つけて欲しい」と熱い

激励の言葉が贈られた。

最後に、特別講演として、脚本家・劇作家の高橋玄洋氏が「所沢に生きる」と題して話された。ご自分の思索と体験から、後半人生を自由に生き生きと生きるには、何かを捨てなくてはならない。自分の場合は、52歳のときに、金と名前を捨てた。そして父上が尊敬された仏教哲学者・金子大栄氏の「今、今の今、そして今」を引用し、決断は、「今から」始めなければならないと結ばれた。

なお、以下の講義は、特別市民公開講座として、公開される。



- ▼ 演題 物忘れと認知症、うつ病について
- ▼ 講師 阿部和穂先生
(武蔵野大学大学院薬学部教授)
- ▼ 日時 7月24日(火)13時半～15時半
- ▼ 場所 市中央公民館ホール(旧市役所跡)

サークル活動計画



7月～9月の各サークルの活動ラインアップです。興味のある活動に参加してみませんか？

アジア研究会（小椋雄二） 7月定例会 7月18日（水）13時30分～16時30分 中央公民館学習室8、9号室演目未定に付き後報 8月定例会 8月8日（第2水曜）中央公民館 終了後別会場で暑気払い夕食会を予定	地域の自然（多胡國男） 7月7日（土）植生調査と畑の草刈他 9時～13時 7月21日（土）植生調査と蔓返し他 9時～13時 8月11日（土）植生調査と蔓返し他 9時～13時 8月25日（土）堆肥場設置と蔓返し 9時～13時
傍聴席（高垣輝雄） 7月19日（木）定例会、14時～新所沢・東公民館 ①講話：前市議会議長中村太さんから政治信条や議長席から見た行政や議会の一年、今、議員の立場で市民に求めることなどを伺います。 ②広報ところざわを読んで、他	歴史散策クラブ（大河原功） 8月6日（月）座学[市内の文化財]中央公民館 9:30～ 8月25日（土）座学（門内）新所沢東公民館 9:30～ 9月8日（土）「逃水の里」を訪ねる。 詳細別途
楽悠クラブ（甲田和巳 事前連絡は不要） 7月17日（火）「マリアが語る一家の物語」ドキュメンタリー 8月7日（火）歌劇「ガヴァレリア・ルスティカーナ」 9月未定日 歌劇「青ひげ公の城」 いずれも、（場）中央公民館 （時）13:30～	ドラマティック・カンパニー（八木雅子） 7月21日（定例活動）、27日（文化祭参加） 8月は夏期休暇とし、9月から「アントニーとクレオパトラ」の朗読に入ります。 9月1日、15日（時間＝10:00～12:00） 会場＝新所沢東公民館
地球環境に学ぶ（塚本二郎） 7月17日（火）15:00～新所沢東公民館 太陽光発電の勉強と10月12日（金）に予定されているバスによるエコ見学会の詳細決定。 ※8月の定例会は休み、9月は18日（火）予定	葵の会（池田新八郎） 7月12日（木）13:30～16:00中央公民館5号 「平家物語」第5回「実盛 忠度都落」 7月14日（土）国立能楽堂舞台鑑賞会 13:00～ 9月13日（木）平家物語第6回「木曾最後」
地域の自然を考える会（前岳良子） 7月8日（日）第1回エクスカーション参加 飯能・天嵐山・多峰主山の自然を守る会 9:30～13:00 7月14日（土）外来植物除去作業（早稲田大学）9:30～13:00 7月24日（火）定例会（トコノ森12号地作業）10:00～12:00 8月21日（火）定例会	野老澤の歴史を楽しむ会（山本苗子） 7月19日（木）ブルーベリー狩りと暑気払い 9時50分所沢東口2番バス乗り場集合 8月2日（木）山田うどん工場見学 9月14日（木）入間基地見学
公園を楽しむ会（渡部正俊） 7月26日（木）：「世田谷美術館～等々力溪谷と不動の滝～九品仏」を歩こう。所沢駅8時20分集合 8月23日（木）：定例会と暑気払いを予定。 9月行事は検討中。	北欧の会（樋口俊夫） 9月22日（土）第33回例会 13:20～ テーマ DVD観賞「かもめ食堂」予定 場所 新所沢東公民館
所沢の自然と農業（高橋起彦） 7月10日（火）月例会 新所沢東公民館 13:30～ 主テーマ：市農業振興課による出前講座&懇談 関心のある方は当日までに御連絡下さい。 7月27日（金）熊倉山ハイク（有志）	地域のまつり研究会（影山洋） 7月18日（水）新所沢公民館「相模薪能」見学コースの最終決定と参加者の確定。 8月15日（水）寒川神社で開催される薪能見学を実施（神社側から招待状が届いた参加者のみ）



料理コーナー

後藤律子

ビールが美味しい季節になってきました。汗をかいた後の一杯は至福の時をもたらしてくれるものです。季節の野菜のキュウリ、ミョウガを使ったこの一品は、ビールのお供にもご飯のおかずにも合いますのでお勧めです。

<キムチ入り肉味噌のレタス包み>

【材料】

- ① レタス2分の1個 ② 豚ひき肉 200g
③ キムチ適宜 ④ キュウリ1本 ⑤ ミョウガ2個
⑥ 葉ねぎ4本 ⑦ しょうが1片 ⑧ 酒大さじ1
⑨ 醤油・みそ各小さじ1 ⑩ ごま油大さじ1

【作り方】

- ① レタスは1枚ずつはずし、水に入れパリッとさせる。
② 生姜はみじん切りに、葉ねぎは小口切にする。
③ ミョウガは縦半分に切ってから斜め薄切りにし、5分ほど水にさらす。キュウリは千切りにする。
④ フライパンにごま油を熱し、ひき肉とショウガを入れ炒める。ひき肉がほぐれてきたら、キムチと葉ねぎを入れてさらに炒める、醤油、みそ、酒を加える。
⑤ 器にレタス、ミョウガ、キュウリ、肉みそをそれぞれ盛りつけ、レタスに野菜と肉みそを包んでいただく。



眩しめばいよ白かりひつじ草
睡蓮や江戸の石垣石の橋
八つ橋を舞の舞台の杜若
鯉はねてやがて静けし未草
睡蓮の浮葉に埋まる菩薩の座
万緑を背負ひて江戸の名残りかな
暗がりの木下に四葩止めし路
配列のやや乱れたる植田かな
池巡る脇の湿り気芒種かな
六月や大川まねる竹蛇籠
睡蓮の静寂にひびく鳥の声

鈴木すぐる 鈴木すぐる
鈴木 征子 鈴木 征子
飯泉 陽子 飯泉 陽子
井出 昇 井出 昇
海老澤愛之助 海老澤愛之助
岡本 博 岡本 博
粕谷 昇 粕谷 昇
河瀬 俊彦 河瀬 俊彦
小林 貞夫 小林 貞夫
小林 典子 小林 典子
佐藤 英子 佐藤 英子

種々の跡の閑けし夏木立
睡蓮を揺らせし鯉の尾のしきり
子等植ふし早苗吹かるる光圀田
緑陰の川面に映る円月橋
輕嶋の子や親の目覚めを待ちかねつ
内庭の池を埋めたる未草
潤む空浮葉立ち上ぐ未草
そつめの目母さんと来た庭花さくろ
九八屋の屋根に実生の青楓
睡蓮を潜りて出る鯉の口
梅雨に入り野菜元気に競ひ合ひ

佐藤 八郎 佐藤 八郎
白神 恵子 白神 恵子
高梨 千代 高梨 千代
高橋 三郎 高橋 三郎
高光 泉 高光 泉
利根川啓一 利根川啓一
中村 直子 中村 直子
橋本 佑子 橋本 佑子
平栗 彰子 平栗 彰子
荒幡千鶴子 荒幡千鶴子
岡本詔一郎 岡本詔一郎

むさし野俳句会（二十四年六月）後樂園吟行作品抄等

《 お知らせ 》

1 「地球環境に学ぶ」サークルが下記イベントを企画。一緒に参加しませんか！

* 詳細は改めて広場等を通じてお知らせいたします。

① 映画会「題名：第4の革命(ドイツ)」

- ・9月22日(土、祝)午後
- ・場所：狭山市市民会館
(西武新宿線狭山市駅徒歩8分)
- ・チケット代金 @1,000円

② メガソーラー発電所見学会(山梨県2か所)

- ・10月12日(金) 所沢8:00発
- ・米倉山・北杜市太陽光発電所他
- ・福祉バス利用(参加費2~3千円予定)

2 女声コーラス“グリーン”

チャリティーコンサート開催！

創立20周年の女性コーラス“グリーン”が今回所沢にて、初めてのチャリティーコンサートを開催いたします。東日本大震災で失われた、釜石市鶴住居(うのすまい)地区の松林の再生、植樹活動のために「みどり再生のための募金」を行います。ご協力下さい。

日時：7月22日(日)午後2時開演 入場無料

場所：所沢中央公民館ホール

指揮：聖学院大学教授 藤田明先生

(市民大学音楽講座 楽悠クラブ顧問)

演奏曲目：ミサ曲 菩提樹、流民の歌他

問い合わせ：高瀬 ☎04-2943-1775